

リスクマネジメント

気候変動関連リスクについては、全社横断的なWGを設け、気候変動リスクの洗い出し、事業への影響度の分析を行っています。WGで分析されたリスクはサステナビリティ委員会で審議され取締役会に報告される体制となっています。

なお、今回は、分析の第一段階として、財務への影響に係る定量的な算出は行っていませんが、リスクが顕在化する可能性や時期、顕在化した場合の影響、現在の対策の状況等を定

性的に評価し、影響度を大・中・小に分類しました。

当社は、様々なリスクに対して、リスク関連情報の収集に努め、リスクの大小や発生可能性に応じて、リスク発生の未然防止策や事前に適切な対応策を準備することにより、損失の発生を最小限にするべく、リスク管理部を中心に組織的な対応に取り組んでおります。

気候変動対応への具体的取り組み

建設作業所におけるCO₂削減の取り組み

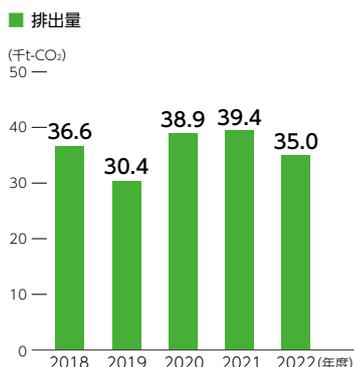
詳細はこちら



長谷工グループでは、建設作業所におけるCO₂排出量を削減するべく、現在、一部作業所にて下記の取り組みを推進

しています。今後も、物件の規模や立地も加味しつつ、採用・推進物件を増やしていく予定です。

CO₂排出量の推移 (長谷工コーポレーション)



Scope 1 (工事車両等の燃料消費に伴うCO ₂ 排出)削減への取り組み	
建設発生土の場内利用による運搬車輛台数の削減	重機への環境配慮型燃料(GTL・B5)使用
電動バックホーの採用(試験採用)	電動フォークリフトの採用
Pca工法の採用	ALC無溶接工法の採用
Scope 2 (作業所での電力利用に伴うCO ₂ 排出)削減への取り組み	
ユニットハウスの屋根を利用した太陽光発電の採用	現場仮設照明のLED化
バイオマス発電電力の採用	
Scope 3 (建設資材の製造・運搬や、廃棄物の輸送・処理等に伴うCO ₂ 排出)削減への取り組み	
廃棄物排出量削減および分別徹底	廃棄物の減容化による運搬車輛台数の削減



GTL燃料の使用(GTLステッカー)



電動フォークリフトの採用

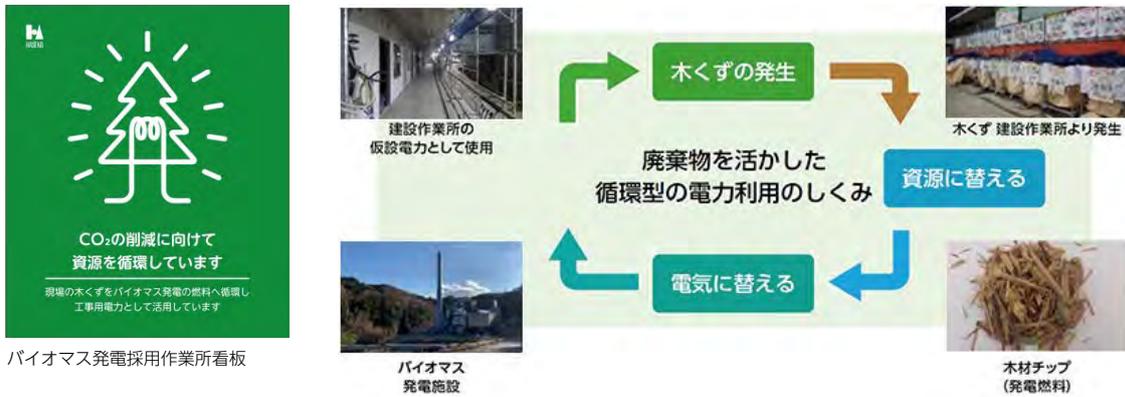


電動バックホーの採用(試験採用)

バイオマス発電の利用

外部の発電事業者と連携して、建設作業所で発生した木くずを燃料の一部にしたバイオマス発電による再生可能エネルギーを、建設作業所の仮設電力として使用する資源循環の取り組みを導入しています。

この取り組みでの発電に際して発生するCO₂排出量は、従来供給の火力発電による電力に比べ少なく、電力供給によるCO₂排出量の削減となり、地球温暖化防止に繋がります。



建設現場の使用電力100%再生可能エネルギー化*

詳細はこちら

長谷工コーポレーションの建設現場において使用電力の100%再生可能エネルギー化を2023年5月に完了しました。今後、不二建設、長谷工リフォーム、細田工務店等、長谷工

グループの全建設作業所の使用電力についても、2025年末までに100%再生可能エネルギー化への切り替えを予定しています。

* 着工後の再エネ電力への切替申請中現場、引渡前の電力会社との本受電(非再エネ)への切替済現場を除く。

集合住宅における木造活用の推進

近年、国産の森林資源の有効活用がサステナブルな社会環境構築の一環として注目されており、また、昔ながらの木のぬくもりによる精神的なリラックス効果なども見直されてきています。

当社としても木造推進委員会を設置し、集合住宅における主要構造部の適材適所の木造化を見据え、その第一段階として、集合住宅における共用棟の木造化を促進してきました。

「コムレジ赤羽」(東京都北区)では、学生寮の2~5階に位置する共用リビングを木造にて施工し、「プランシエスタ浦安」(千葉県浦安市)では、最上階に木造住戸(14戸)を採用し、当社として初めて専有部に木造を採用したマンションとして竣工

しました。

長谷工グループでは、2014年から木造建築等の研究開発に取り組み、14件が竣工済、9件が施工中となります。(2023年8月現在)

2025年3月には上層4層を耐火木造化する「(仮称)目黒区中央町一丁目計画」が竣工予定です。将来的には高層物件の木造化にも挑戦する他、賃貸のみである現状から分譲マンションの展開へとステージを進めたいと考えています。

今後も2050年カーボンニュートラルを目指し、木造建築の推進を図ってまいります。



「プランシエスタ浦安」



最上階構造図



最上階居室室内写真